2020北九州SDGs未来都市アワード受賞者発表！

北九州市内を中心に SDGs･ESD に取り組む団体を対象に、「持続可能な社会づくり」やそれを担う「人づくり」の優れた活動を表彰しています。今年度は 49 件のご応募がありました。ありがとうございました。そのなかで、ESD 賞を受賞した団体の活動を紹介します。

その他の受賞者については SDGs 未来都市アワード

ＥＳＤ賞（市民部門）学校法人本城学園 認定こども園 本城東幼稚園

活動名：幼児とコンポスト「たべるちゃん」の取り組み

園児が日常の幼稚園の生活の中で、給食の果物の皮などをコンポスト化し、その堆肥で野菜を育て、食べるという循環型リサイクル活動を実施しています。家庭でも残さず食べるという意識もでき、環境問題を身近に捉える日々の体験学習として、保護者との連携も効果的と評価されました。

ＥＳＤ賞（市民部門）北九州市立 大里柳小学校

活動名：大好き わたしの柳のまちプロジェクト

SDG11 と 17 を中核に、自分が住むまちの良さとその課題を見出し、解決するための体験学習を１～６年で継続的に活動しています。学校目標に SDGs が明確に位置付けられ、持続可能な社会を形成する一員としての自覚を高め、実践力を育てながらシビックプライドを醸成する点が評価されました。

ＥＳＤ賞（企業部門）株式会社エコウッド

活動名：ＥＥＧ (エコウッド エコロジカル　グローバルビジョン)

高品質で廃材を有効活用できる「木材・プラスチック再生複合材」の製造技術を開発し、建築解体材や間伐材等の活用ニーズを掘り起こし、CO_2 削減、廃棄物削減、森林資源の保護に寄与されてきました。企業活動そのものが循環型社会を意識したものになっており、SDGs のビジョンが明確で、理念の高さを感じる取り組みとして評価されました。

～イベントプロジェクト～

10 月 エコライフステージ mini

11 月 街ゼミ～エコ工作を楽しもう～

今年度はコロナ禍で大きなイベントが中止になりましたが、10 月にエコライフステージ mini（水環境館）、11 月に街ゼミを行うことができました。少人数で行い、子どもからは楽しかったと好評でした。

～ツキイチの集い ～

10 月　Let's be Reborn!　生きものに優しい人にへ～んしん！
講師：上野 由里代氏（NPO 法人 北九州・魚部）

11 月　人生 100 年時代　必要なお金は 2 億円 !?
講師：西日本シティ銀行

12 月　魚町 SDGs ウォークラリー
講師：梯 輝元氏（魚町商店街振興組合理事長）

10 月 オンライン講習会

今年度は３回しかできませんでしたが、幅広い世代の方に参加していただき一緒に学べたと思います。

未来パレット ESD 北九州ESD協議会
事務局
〒802-0006　北九州市小倉北区魚町3丁目3-20　中屋ビル地下1階
電話・FAX (093)531-5011
E-mail：k-esd@k-esd.jp　URL：https://www.k-esd.jp

発行：北九州ESD協議会 事務局
編集：北九州ESD協議会プランティングプロジェクト

無断転載を禁じます
Copyright © 2007 Kitakyushu ESD Council
All Rights Reserved.

この未来パレットはタカミヤ・マリバー環境保護財団のご協力により制作されています。

Let's ESD！ Kitakyushu ESD Council News Letter
March 2021

ESD 未来パレットだより

vol.29
2021年3月31日発行
北九州ESD協議会

ESDとは、「持続可能な開発のための教育」を意味する英語Education for Sustainable Developmentの頭文字をとったものです。

2020 年度は、新型コロナウィルスによる感染症 COVID-19 により、感染防止対策のための「新しい日常」を、世界中が歩むこととなりました。その困難の中では、さまざまな情報を得て、考え、私たちの暮らしを持続可能にするための行動を起こす ESD（持続可能な開発のための教育）が、まさに重要です。

北九州 ESD 協議会のメンバーは、イベントや学びの場面の実施が困難な状況の中でも、前に向かって歩いています。その一部をご紹介します。

ESD 新たな時代へのアプローチ

～コロナ禍に元気と笑顔の花が咲く～

「地域から元気を発信しよう！」～サプライズ・花火大会～

熊西校区まちづくり協議会は熊西市民センターと連携して、コロナ禍に負けずに頑張ろう！との想いを込めて「熊西応援プロジェクト」を推進してきました。2021 年 1 月 11 日の花火大会は、その一環で企画の趣旨に賛同した校区の皆様の寄付で行うことが出来ました。約５分間に 60 発の花火が打ち上げられ、夜空を飾りました。反響がとても大きかったです。
（熊西 ESD 実行委員会 金子良憲）

オンライン講演会で原点を学ぶ

「人材育成・発掘プロジェクト」では各区の市民センターとで連携して「おしゃべり工房」を 2017 年から実施し、コロナ禍では、３密対策を考慮してオンライン講習会に切り替えて２回実施しました。北九州 ESD の「原点」は公害克服！という視点のもと、神崎智子氏・森本美鈴氏両講師に当時の様子を詳しく講義して頂きました。この活動は今後も継続する予定です。
（人材育成・発掘 PJ リーダー 渡辺いづみ）

コロナ禍で学んだことをオンラインで発表

西南女学院大学ゴールデン Z クラスでは、国内外で行われているオンライン会議に参加したり、発表したりしています。2020 年８月 12 日の国際ユースデイを記念して行われた RCE アジア太平洋地域のウェビナーでは、コロナ禍で学んだことについて発表しました。
（担当教員・塚本美紀）

2020 年度は 180°違う韓国 ESD ツアーに

2020 年 12 月 13 日・14 日に RCE ドボン区（ソウル）、RCE インジェと ZOOM 交流。日韓の参加者一人ひとりの想いがじっくり聴けて実際のツアーとは違った雰囲気でした。一日でも早く逢いたいという切ない気持ちがあふれ出てくるような内容でした。
（調査研究・国際 PJ リーダー 三宅博之）

オンラインイベントで遠くからも参加

対面イベント実施が見込めない中、SDGs に関する二つのオンラインイベントを企画・開催しました。テーマは①「生物や自然を守るために自分に何ができるのかを考える」②「金融教育から消費活動の在り方を学ぶ」です。対面で行っていた時のイベントとは異なり、北九州市民に限らず他県から参加してくださる方も多くいました。
（北九州市立大学地域創生学群 ESD プロモート実習 1 年リーダー 濱田侑駄）

人類は、これまでにも幾多の感染症の危機を、過去から今に続く学びと行動、そして協力で乗り越えてきました。

コロナ禍をよい学びの機会とも捉えて、前進していきたいものです。その中で生まれる新しい協働にも期待しています。

北九州 ESD・SDGs 物語 ～公害克服の歴史をたどって
③城山のしゅくだい

～公害と向き合った「城山小学校」から、SDGs 未来都市へのメッセージ

原賀いずみ

北九州 ESD・SDGs 物語シリーズがきっかけで、今年 1 月には元北九州市環境学習課課長で、北九州市環境ミュージアムの立ち上げに奮闘した森本美鈴さんのオンライン講演会が実施されました。八幡東区の北九州市環境ミュージアムには、北九州の公害を「空・海・暮らし」の視点から語る証言ビデオや「城山小学校」などのジオラマがあり、公害に向き合い暮らしていた市民の日常を感じることができます。全国一の公害校と呼ばれた「城山小学校」はどこにあり、どんな教育が行なわれていたのでしょう？廃校になって 44 年、この小学校の歩みを振り返れば、北九州市が SDGs を実現するための教育 =ESD の原点が見えてきます。コロナ禍の今！子どもたちの健康と環境について考え抜いた城山小学校が残した宿題を見直す時なのかもしれません。

八幡西区黒崎駅の裏、鹿児島本線の高架をくぐり抜けた洞海湾に面した地域が、城山小学校区です。かつて黒田藩の出城があり、江戸時代は長崎街道沿いの屋敷町でした。1901 年、官営八幡製鐵所が誕生すると、沿岸には関連工場が立ち並び、戦後の高度成長期には製鉄、化学、窯業、セメント工業など大小 80 もの会社が操業、社宅ができ、人が移り住み活気ある町が生まれました。

やがて、陣山小学校の児童増加と交通量の多い国道 3 号線を通り陣山小学校へ通うことを危険だと感じた父母たちは、城山地区に小学校を要望します。念願かなって 1956 年 4 月、陣山小学校から分離し、ブランコ一つない運動場に白亜の校舎、848 人の児童が通う「城山小学校」が誕生します。しかし、運動場での朝会では、煤塵が粉雪のように舞い落ち、児童の頭や服は真っ白。北西の風が吹くと教室の中まで黒々とした煙が入り込み、黒板の文字も見えにくく呼吸が苦しくなり、教室は咳の連発。特に声を発する教師たちは喉を痛めて手術する人も多かったと記されています。

環境ミュージアムの証言ビデオに登場する城山小学校開校時に学校保健主事だった芦馬芳美先生（城山小在任 1956 ～ 1965）は、「健康調査の結果、児童の病気数は 5 千を超え、一人で 5 つもの病気を持っていたことに愕然とした。山口大の野瀬教授、九大、九工大などの先生方や大気汚染の先進地域四日市を訪ね、降塵量の測定器を自作し、煤塵の発生源である工場にも掛け合いマスコミにも訴えた」と語っておられます。

子どもたちの健康と成長を願う教師と保護者たちは、学び舎づくりにも奮戦しました。1959 年より、降下煤塵日本一の記録を更新し続けた城山地区で 1962 年にプール建設が決まると、「汚い水で泳がせる訳にはいかない」と浄化装置設置のためＰＴＡが寄付を集めに奔走、周りの企業が支援します。また緑豊かな学校にしようと 100 種類の樹木を植えますが、煤塵と塩害のため木は育たず、1m50㎝ほどの土手を作って植樹し、育ったのはキョウチクトウだけだったと記されています。

その後、城山小学校の教師たちと保護者の挑戦は続きます。肺活量を高めるために始めた合唱は九州で 3 位、鼓笛隊も組織されました。八幡市内のスポーツ大会では常に上位。また、各教室には空気清浄機が取り付けられますが、1968 年には降下煤塵 98.5 トン、日本一の記録を更新し続けます。そんな空の下で、教師たちは 1965 年から「公害地における教育研究会」を発足させます。1970 年の「公害地における教育　第 5 年次」には、「この空気の汚染せる地域に生活して、知らず知らずのうちに身体を冒されていくだろう児童の事を思う時、このまま放っておくわけにはいかない」と研究に取り組んだ教師たちの動機と、「公害による身体への影響だけでなく、それを食い止め、住みやすい地域にするために教育として考えられないものだろうか。即ち公害と教育を結びつけて研究しようと考えたのである」と記されています。

教師たちは「公害対策委員会」を組織し、公害学習の研究を推進します。公害の影響を少なくするための教育として①公害地における保健学習のあり方②公害に負けない体力づくり③社会科学習における公害の認識④明るく育てるための情操教育としての図工や音楽、公害から守るための校内緑化や理科的な考え方、施設の充実など、さまざまな教科からのアプローチが記されています。現在、北九州市の小学校での恒例行事「緑の教室」も城山小学校から生まれたものです。さらに保護者も全国ＰＴＡ大会で協働の姿を発表し、翌年は城山小学校で研修会も開催されました。

その後、戸畑の婦人会の活躍もあり、公害問題が大きく報道される中で、「城山地区の煤塵日本一更新」など劣悪な居住環境が問題視されることに加え、城山地区にあった社宅は 1967 年～ 69 年間に完全に取り壊され、2 年間で約 300 人が転校し、児童数は 371 人に激減します。1970 年、北九州市は公害防止条例が制定され、市民の環境意識が高まる中で「公害過疎」が進み、1973 年には児童数 164 人という小規模校になるのです。

このような状況の中、1975 年から城山小学校では研究のテーマを公害教育から環境教育へシフトしていきます。理由として、公害防止条例による汚染の減少、公害に正面に向き合うことで生まれた弊害（公害による苦しみや生活上の苦労を感情的な次元で訴えても、教師の願う公害問題が多くの人々の心に切実な問題にはならず、過疎化が進んだのではという思い）が綴られています。

城山小学校で図工教育や研究を担当し、「はばたけ城山の子」の記念碑の言葉を考案した青木道夫先生は「1 時間ごとに煤塵を図る調査をしたり、一人ひとりを褒めて、描かせ心を育てたいと願った。毎日が煤塵との戦いだったが、城山小学校の教育はぶれずに間違っていなかったと思う」と語り、城山小学校出身の井本雅枝さんは、「公害のためになくなったけれど、素晴らしい小学校があったことを知ってほしい」と環境ミュージアムのボランティアとして語ります。

「城山小学校記念誌」には以下のような言葉が記されています。「公害の実態を理解させ、その被害から身を守り、それを最小限に食い止めるという教育だけでは未来を担っていく子どもの教育とはいえず、真の解決にならないと考える。消費生活費ひとつを例にとっても人間が今のように資源を浪費し、環境を破壊するような生活様式をやめ、新しい生活様式を生み出すという課題はまさに、教育が担う課題である。公害を防ぐ狭い公害教育から、本来のより豊かな環境を創造する人間を育成する環境教育へと転換をはかる必要がある」

城山小学校が残した言葉は、SDGs 未来都市を生きる私たちの宿題ではないでしょうか。

学びのポイント

城山の宿題って、なんだろう？

話し合ってみよう！

参考文献

『煙を星に変えた街～北九州市の挑戦』四方洋 1991 講談社
『城山小学校記念誌』1977 城山小学校
「公害地における教育　第８集～公害に負けない体力づくりめざして」1974 城山小学校
「公害地における教育　第５年次」1970
「試作・城山のしゅくだい」はらがいずみ　2001

この未来パレットはタカミヤ・マリバー環境保護財団のご協力により制作されています。